漢字の読み分け指導に関する一考察

―二つの音読みを持つ漢字について―

加納千恵子

要　旨

中級漢字の指導においては、学習者の困難点の克服というのが大きな目標の一つになる。そして、漢字圏の学習者にとっては、字音語の読み、特に清音・濁音、長音・短音の区別や促音化の有無などに不正確さが残ることが多い。このような困難点を克服させるための効果的な指導項目として、常用漢字の範囲内で音読みが２つある漢字に注目し、その読み分けの指導法について考える。

［キーワード］　中級漢字　漢字圏学習者　字音語　音読み　読み分け

On Teaching Kanji Readings:

Kanji which have two ON readings

Kano, Chieko

At intermediate-level Kanji teaching, one of the biggest objectives is to make the students overcome their difficulties in learning Kanji. Kanji users tend to retain some errors in reading Kanji compounds; in particular, the distinction between voiceless and voiced consonants, long and short vowels, double consonants, etc. To establish more effective instruction, the author examines how to teach Kanji which have two ON readings in the JOYO Kanji (1,945 Kanji for common use) list.

1．はじめに

加納（1994a）では、中級段階の学習者に漢字指導を行う場合、ゼロから積み上げていく初級者への指導とは異なり、教師は、一人一人の学習者が持っている困難点を的確に把握し、それらを克服するためのアドバイスを与えることが必要であることを指摘した。そして、具体的に以下の10の指導項目をあげている[1)]。

①字形、字義、字音、用法による漢字の整理法・分類法を教える
②スル動詞（「する」をつけて動詞として使えるもの）になる漢字熟語の用法を教える
③ナ形容詞（「な」をつけて名詞を修飾するもの）になる漢字熟語の用法を教える
④反対の意味を持つ漢字と反義語の用法を教える
⑤類似の意味を持つ漢字と類義語の用法を教える
⑥同音の漢字と同音語の用法を教える
⑦接辞に使われる漢字の用法と漢字熟語の語構成を教える
⑧形声文字の音符による漢字の整理法と音読みの類推法を教える
⑨複数の読みを持つ漢字の音訓の読み分けを教える
⑩日本語の漢字音の構造的特徴を教える

①は、学習者に自分自身の漢字の学習法や整理法を内省させ、弱いところに気づかせるための指導項目である。漢字はひらがなやかたかなと違って、字形、字義、字音、用法など複数の情報を担っているが、非漢字圏学習者は単字の字形や字義による整理法によってのみ漢字を覚えていることも多く、特に漢字を苦手としている学習者は字音や用法による整理法に気づいていないことが多い。一方、漢字圏学習者は、字形や字義についてはすでに母語において知識を持っており、日本語においても語単位の字義による整理法を使っている者が多い。そのため、学習者の母語と日本語との間に用法あるいは読みの違いのある漢字・漢字語彙に関しては、間違いが多くなってしまう。したがって、①を教えることによって、漢字の各情報に関する知識と運用力のバランスの大切さを学習者に再認識させ、さらに上のレベルに進むための自律的な学習を促すことができる。

②～⑦は、中上級の読解や作文に必要な漢字語彙のボキャブラリー・ビルディングを効率的にしていく上で非常に重要な指導項目である。中級レベルの漢字教育では、文字教育というより語彙教育的な側面を強く打ち出す必要がある。特に④⑤や⑦は、従来読解などの授業で指導されることが多かったが、非漢字圏学習者にとっては、それらが難しいために読解も進まないということがよくあり、読解以前の漢字指導の段階から効率的に行うことが望ましい。また、漢字圏の学習者にとっては、母語においてすでに漢字語彙をもっているものの、日本語との意味・用法のずれや違い、すなわち②③⑤などに困難を感じていることが多いので、日本語における漢字熟語の用法を正確にマスターさせることが、さらに上級へ進むための鍵となる。

⑧～⑩は、漢字の読みの正確さを身につけさせるための指導項目であり、漢字圏の学習者にとって、特に克服しなければならないところである。漢字圏の学習者は、非漢字圏の学習者に比べると、どうしても漢字が「できる」という印象が強いために放っておかれがちになり、その結果、かなり上級になっても漢字の読みに不正確さが残る場合が多い。玉村(1993)は、非漢字圏学習者も含めて、⑧と⑩の指導の重要性を指摘している[2)]が、本稿では⑨について取り上げ、特に二つの音読みを持っている漢字の読み分けに焦点を当てて、その具体的な指導法について考える。

2．二つの音読みを持つ漢字

漢字学習の初期においては、漢字の難しさの一因として、その「多読性」があげられる。まず、一つの漢字に音読みと訓読みがあり、さらに複数の音読みや訓読みを持つ漢字もあるためである。特に、「行」や「生」など使用頻度の高い漢字ほど数多くの読みが存在し、覚えるのが大変になっている。しかし、中級レベルで学習する漢字になると、全ての漢字に複数の読みがあるわけでもないことが徐々にわかってくる。実際、常用漢字1945字の中には、音読みを持たない訓読みだけの漢字が40字、訓読みを持たない音読みだけの漢字が736字もある。読みが一つなら覚えやすそうであるが、実は、音読みしかない漢字には同音字が数多くあるので、混同する恐れもある。同じ「イ」でも、「以上」の「以」、「医者」の「医」、「依頼」の「依」、「委員」の「委」というふうに、よく使われる熟語の形で意味とともに覚えていくことが必要なのである。

また、「悪（アク、オ、わる-い）」や「易（エキ、イ、やさ-しい）」のように音読みを二つ持つ漢字が261字ある[3)]。ただし、これらの中には、「益（エキ、ヤク）」の「ヤク」（「御利益（ごりやく）」）や、「夏（カ、ゲ）」の「ゲ」（「夏至（げし）」）のように、漢和辞典でも特殊音とされているものが入っている。このような特殊音は、読み分けとして教えるよりも例外としてとして教えるほうが覚えやすいので、これらを除くと、二つの音読みを持つ漢字は148字ということになる。だが、それ以外にも特定の用法にしか使われないと思われる読みがある。例えば、「去（キョ、コ）」の「コ」は「過去（かこ）」ぐらいにしか使われず、「絵（エ、カイ）」の「カイ」も「絵画（かいが）」などに限られるといった場合である。このような特定の用法に関しても、読み分けというよりは例外的用法として教えたほうが覚えやすそうである[4)]。どこまでを特定の用法と見なすかによって、字数に多少の増減はあろうが、ここでは261字から特殊音と特定の用法をもつものを除いた117字に「中（チュウ、ジュウ）」を加えた、以下の118字について、二つの音読みの読み分けルールを考え、その指導法について検討することにする。

悪一易音下化家画会解　外楽間気吉客九宮御漁　京強郷競業極金形恵経
月元言後口工行黄興合　作雑惨子施示治執質蛇　宗十柔重女如色織神人
図世正生西姓性省素相　装率存太対体大代台男　地茶中丁直定都頭日白
発伴判板不物分文聞兵　米便歩望木幕万無名命　明役由有力礼鈴霊

これらの２つの音読みを持つ漢字は、次のような音的特徴によって分類できる。

A. 子音が同じもの　57字

例　化（カ）（ケ）　家（カ）（ケ）　外（ガイ）（ゲ　）　間（カン）（ケン）　気（キ）（ケ）

吉（キチ）（キツ）　客（カク）（キャク）　九（ク）（キュウ）　御（ゴ）（ギョ）　京（ケイ）（キョウ）

競（ケイ）（キョウ）　業（ゴウ）（キョウ）　金（キン）（コン）　経（ケイ）（キョウ）　月（ガツ）（ゲツ）

元（ガン）（ゲン）　言（ゲン）（ゴン）　口（コウ）（ク）　工（コウ）（ク）　興（コウ）（キョウ）

合（ゴウ）（ガッ）　作（サク）（サ）　雑（ザツ）（ゾウ）　子（シ）（ス）　施（シ）（セ）

執（シツ）（シュウ）　質（シツ）（シチ）　宗（シュウ）（ソウ）　十（ジュウ）（ジッ）　色（ショク）（シキ）

織（ショク）（シキ）　世（セイ）（セ）　正（セイ）（ショウ）　生（セイ）（ショウ）　西（セイ）（サイ）

姓（セイ）（ショウ）　性（セイ）（ショウ）　省（セイ）（ショウ）　素（ソ）（ス）　相（ソウ）（ショウ）

装（ソウ）（ショウ）　太（タイ）（タ）　対（タイ）（ツイ）　体（タイ）（テイ）　丁（チョウ）（テイ）

都（ト）（ツ）　発（ハツ）（ホツ）　兵（ヘイ）（ヒョウ）　便（ベン）（ビン）　名（メイ）（ミョウ）

命（メイ）（ミョウ）　明（メイ）（ミョウ）　由（ユウ）（ユ/ユイ）　力（リョク）（リキ）　礼（レイ）（ライ）

鈴（レイ）（リン）　霊（レイ）（リョウ）

A類では、音の特徴として次の3つが見られる。一つは「化(カ／ケ)」、「家(カ／ケ)」、「間(カン／ケン)」、「月(ガツ／ゲツ)」などのように、子音が共通で母音［a］と［e］の対応が見られるもの、もう一つは「客(カク／キャク)」、「九(ク／キュウ)」、「京(ケイ／キョウ)」などのように拗音化が見られるもの、最後は「口(コウ／ク)」、「工(コウ／ク)」、「作(サク／サ)」などのように音の長短の対応が見られるものである。いずれにしても、［k］音と［s］音で始まる音読みの漢字が多いのに気づく。

B. 母音が同じもの　14字

例	楽（ガク）	黄（オウ）	蛇（ジャ）	柔（ジュウ）	女（ジョ）
	（ラク）	（コウ）	（ダ）	（ニュウ）	（ニョ）
	如（ジョ）	人（ジン）	男（ダン）	茶（サ）	望（ボウ）
	（ニョ）	（ニン）	（ナン）	（チャ）	（モウ）
	木（ボク）	幕（バク）	万（バン）	無（ブ）	
	（モク）	（マク）	（マン）	（ム）	

B類では、「柔(ジュウ／ニュウ)」や「女(ジョ／ニョ)」、「如(ジョ／ニョ)」、「人(ジン／ニン)」のような［j］音と［n］音の対応と、「望(ボウ／モウ)」、「木(ボク／モク)」、「幕(バク／マク)」、「万(バン／マン)」、「無(ブ／ム)」のような［b］音と［m］音の対応が目立つものとして認められる。

C. 清濁の対照が見られるもの　28字

例	下（カ）	画（カク）	解（カイ）	宮（キュウ）	強（キョウ）
	（ゲ）	（ガ）	（ゲ）	（グウ）	（ゴウ）
	郷（キョウ）	極（キョク）	形（ケイ）	後（コウ）	行（コウ）
	（ゴウ）	（ゴク）	（ギョウ）	（ゴ）	（ギョウ）
	惨（サン）	示（シ）	治（チ）	神（シン）	存（ソン）
	（ザン）	（ジ）	（ジ）	（ジン）	（ゾン）
	大（タイ）	代（タイ）	台（タイ）	地（チ）	中（チュウ）
	（ダイ）	（ダイ）	（ダイ）	（ジ）	（ジュウ）

白（ハク）　伴（ハン）　判（ハン）　板（ハン）　不（フ）
（ビャク）　（バン）　（バン）　（バン）　（ブ）

分（フン）　平（ヘイ）　歩（フ）
（ブン）　（ビョウ）　（ブ）

「清濁」の区別は漢字圏学習者にとって苦手とするところでもあるので、特にこのC類の読み分けを指導することは重要であると思われる。

D. 一音違い　8字

例　一（イチ）　音（オン）　率（ソツ）　物（ブツ）　文（ブン）
（イツ）　（イン）　（リツ）　（モツ）　（モン）

聞（ブン）　米（ベイ）　有（ユウ）
（モン）　（マイ）　（ウ）

E. その他　12字

例　悪（アク）　易（イ）　会（カイ）　恵（ケイ）　漁（ギョ）
（オ）　（エキ）　（エ）　（エ）　（リョウ）

重（ジュウ）図（ズ）　直（ジキ）　定（ジョウ）頭（ズ）
（チョウ）　（ト）　（チョク）　（テイ）　（トウ）

日（ジツ）　役（エキ）
（ニチ）　（ヤク）

D類は数が少ないので、指導する際にはE類といっしょにするか、あるいはA類と同じような[b]と[m]の対応が見られるものがあるので、そちらといっしょにまとめるかして、独立した類とする必要はないかもしれない。

3、読み分けルールの説明

上で見てきたような二つの音を持つ漢字の読み分け、使い分けを実際に指導する際には、どのような説明をするのが効果的なのだろうか。加納（1994b）では、漢字圏学習者が読み間違えやすい漢字として「大」を取り上げ、以下のような簡単な読みテストを行ってみた。

対　象：　1993年後期留学生センター補講「漢字Ⅱ」の学生29名

漢字圏14名、非漢字圏15名

テストの形式：Ⅰ．次の漢字のことばの読みをひらがなで書きなさい。

1．大型車　2．大事故　3．大成功　4．大使館　5．大戦争

6．大金持　7．大量　8．遠大　9．大勝　10．最大

11．大多数　12．大仕事　13．大手企業　14．大国主義　15．大家族制

16．重大　17．大会　18．増大　19．大声　20．大意

Ⅱ．上の問題を考えるとき、「大」をどんな場合に何と読むかについて、ルールのようなものを考えましたか。a～cに○をつけなさい。

a．自分でルールを考えた。

b．ルールを考えてみたが、見つからなかった。

c．全体を一つのことばとして考え、特にルールは考えなかった。

Ⅲ．上でa.と答えた人は、どんなルールを考えたか、説明してください。

「大」は漢字としては初級漢字であり、中級段階で漢字そのものを知らない学習者はいない字であると思われるが、漢字圏学習者にとっては、以下のような決していい成績とは言えない結果が出た。

読みテストの平均得点：		非漢字圏学習者	12.5／20点	正答率63％
		漢字圏学習者	9.7／20点	49％
読み別平均得点：	「おお」5題	非漢字圏学習者	2.8／ 5点	57％
		漢字圏学習者	3.0／ 5点	60％
	「タイ」6題	非漢字圏学習者	3.3／ 6点	56％
		漢字圏学習者	2.6／ 6点	44％
	「ダイ」9題	非漢字圏学習者	6.3／ 9点	70％
		漢字圏学習者	4.0／ 9点	44％

読み分けルールを意識したか：	a	非漢字圏学習者	4名（27％）
		漢字圏学習者	1名（ 7％）
	b	非漢字圏学習者	8名（53％）
		漢字圏学習者	4名（29％）
	c	非漢字圏学習者	3名（20％）
		漢字圏学習者	9名（64％）

この学期の漢字の総合テストにおいては、漢字圏学習者の成績の方が非漢字圏を上回っていたにもかかわらず、上記のような読み分け問題においては漢字圏の方が成績が悪いという結果になった。特に、「ダイ」と「タイ」という字音の読み分けに困難が見られる。また、非漢字圏学習者では、Ⅲの問にaまたはb、つまり「読み分けのルールを考えようと意識した」と答えたものが合わせて80%にものぼるのに対して、漢字圏学習者の方は読み分けをルールとして意識することが少ないということがわかった。テストの後、「漢字Ⅱ」の授業において次のような簡単な読み分けのルールを示して、読み練習を指導した。

ルール1：「大」＋訓読みのことば	→おお	例　大＋声、 大＋金持、大＋型／車
ルール2：「大」＋漢字1字	→タイが多い	例　大＋量、 大＋勝、 大＋使／館
ルール3：漢字1字＋「大」	→ダイ	例　遠＋大、 最＋大、 増＋大
ルール4：「大」＋2字熟語	→ダイ	例　大＋事故、大＋成功、大＋家族

テストのⅢで学習者から寄せられた読み分けのルールにも1と4は見られたが、2と3は見られなかった。授業後、特に韓国の学生から「このような読み分けのルールは今まで習ったことがなかったが、非常に役に立つのでもっと教えてほしい」という要望が出されたことから、読み分け指導の必要が認められた。

いくつかの漢字の読み分けの説明を試みた結果、以下の（1）から（5）のような5つの分類が考えられた。

（1）漢字の意味によって読み分けが説明できるもの

例　画（ガ）　：画家　画面　画像　絵画　版画　動画　録画　…［絵］
　　（カク）　：画一的　画策　画数　点画　区画　企画　計画…［区切る］

　　楽（ガク）　：楽譜　楽器　楽団　楽章　音楽　器楽　声楽　…［音楽］
　　（ラク）　：楽天的　楽観　安楽　気楽　娯楽　行楽　道楽…［楽な／楽しい］

　　重（ジュウ）　重圧　重量　重力　重傷　重要　体重　比重　…［重い］
　　（チョウ）　重宝　重複　貴重　慎重　尊重　軽重　…［大切な］

（2）漢字の話中の出現位置によって読み分けが説明できるもの

例　大（ダイ）　：大事故　大成功　大多数　大家族　大発見　…［大＋□□］
　　拡大　増大　重大　最大　広大　壮大　盛大　…［□大］

（タイ）　：大量　大衆　大切　大変　大使　大勝　大敗　…［大□］
（例外　　大学　大臣　大事など）

表1　「大」の音読みの読み分け

大	タイ	ダイ
大□	大使　大国　大会　大量 大意　大衆　大陸　大会 大河　大気　大火　大木 大役　大半　大安　大会 大病　大砲　大戦　大群 大賞　大切　大変　大層 大勝　大敗　大成　ほか	大学　大臣　大名　大王 大仏　大工　大地　大根 大豆　大福　大腸　大脳 大吉　大事　大胆
□大		遠大　重大　広大　多大 強大　偉大　盛大　雄大 寛大　絶大　過大　最大 増大　拡大 （＊東大　京大　北大　早大 私大　ほか）
大□□	大西洋	大事故　大戦争　大多数 大家族　大自然　大災害 大洪水　大歓声　大爆笑 大成功　大失敗　大渋滞 大賛成　大反対　大流行 大発見　大移動　大活躍 ほか
□□大		等身大　実物大 （＊筑波大　東工大　上智大 国立大　公立大　女子大 ほか）

＊は「大学」の意味の略語である。漢字2字の前に「大」がついて「タイ」と読む例外は、「大西洋」のみである。「大使館」、「大気圏」、「大衆車」、「大量化」などの語は以下のような「大□」という構造の語に接尾辞がついたものと考えられる。

大使館＝大使＋館

大気圏＝大気＋圏

大衆車＝大衆＋車

大量化＝大量＋化

大砲台＝大砲＋台

「一」の出現位置による読み分けは、さらに明らかである。

例　一（イチ）：一時　一年　一月　一日　一流　一台　一枚　…［一□］
（例外．万一など）
（イツ）：統一　唯一　均一　画一　同一　…［□一］
（小さい「ッ」：一般　一致　一級など）

（３）(1)(2)の説明＋漢字が使われることばの品詞によって読み分けが説明できるもの

例　力（リョク）：引力　勢力　能力　迫力　視力　動力　重力［□力］＝N
生産力　労働力　遠心力　判断力　［□□＋力］＝N
努力　尽力　協力　［□力］＝VN
（リキ）　：力点　力量　力学　力士　力作　［力□］＝N
力泳　力投　力説　［力□］＝VN
怪力　自力　馬力　［□力］＝N

表２　「力」の音読みの読み分け

力	リョク	リキ
力□		力点　力量　力学　力士 力作 力泳する　力投する 力走する　力戦する 力演する　力説する
□力	引力　勢力　能力　重力 圧力　火力　水力　学力 気力　脚力　腕力　暴力 活力　視力　体力　知力 迫力　魔力　魅力 強力な 極力 強力する　尽力する 努力する	怪力　馬力　自力　他力 人力　非力　念力　法力
□□力	生産力　労働力　防衛力 包容力　想像力　理解力 破壊力　洗浄力　推進力 実効力　実践力　忍耐力 生活力　精神力　など	十人力　百人力　千人力 人通力　金剛力

「力」が前に来れば「リキ」後ろに来れば「リョク」と説明がつく。「力」が後ろに来る場合で「リキ」と読むのは、かなり限られた古い名詞である。

（４）(1)(2)の説明＋漢字が使われることばが和語か漢語かによって読み分けが説明できるもの

例　地（チ）：１．土地の意味

地球　地上　地下　地質　地形　地層　地熱　地理　［地□］

土地　台地　平地　宅地　農地　産地　基地　団地　［□地］

遊園地　工業地　住宅地　出生地　植民地　中心地　［□□＋地］

（ジ）　１．土地の意味

地面　地震　地盤　地所　地獄　地蔵　地代　地蔵　［地□］

地響き　地割れ　地滑り　地続き　地引き　地慣らし［地＋和語］

２．元々の／生まれつきの

地元　地酒　地唄　地声　地卵　地道　地金　［地＋和語］

下地　素地　生地　意地　［□地］

３．織物／ぬの

布地　服地　裏地　厚地　薄地　無地　白地　［□地］

表３　「地」の音読みの読み分け

地		チ	ジ
1. 土地	地□	地球　地上　地下　地中 地熱　地形　地質　地層 地軸　地積　地盤　地理 地方　地帯　地域　地区 地点　地名　地図　地下 ほか	地面　地震　地盤　地代 地所　地獄　地蔵　地味 ＊地主　地肌 ＊地響き　地割れ　地滑り 地引き　地慣らし　地続き
	□地	土地　大地　山地　平地 陸地　大地　盆地　内地 低地　高地　用地　宅地 団地　基地　墓地　空地 農地　耕地　山地　借地	
	□□地	遊園地　商業地　工業地 住宅地　出生地　植民地 埋立地　目的地　中心地	
2. 元々	地□ □地		＊地元　地酒　地唄　地声 地卵　地道　地色　地金 下地　素地　生地　意地
3. 織物	□地		布地　服地　裏地　厚地 無地　白地

＊は、和語につくもの。

（5）きれいに説明できないもの

例　下（カ）：1．上と反対の位置

下位　下院　下線　下級　下層　下等　下記　［下□］＝N

2．～の下に広がるところ

階下　眼下　地下　天下　［□下］＝N

3．下にいる人／その人の下に自分がいる

配下　部下／殿下　陛下　貴下　［□下］＝N

4．～スル動詞（おろす／おりる）

却下　降下　落下　低下　南下　沈下　［□下］＝VN

下降　［下□］＝VN

（ゲ）：1．上と反対の位置

下品　下巻　下旬　下劣　下水道　［下□］

4．スル動詞（～からおりる／もどる／さがる）

下校　下車　下山　下野　下落　下宿　［下□］＝VN

5．その他

下痢　下剤　［下□］

上下　［□下］

このような分類のうち、(1)(2)(3)(4)の類については、授業の中で学習者に読み分けを考えさせルール化を図ること、集中的に読み分けの練習をさせること、などによって指導することができると考えられる。漢字テストの結果などから学習者のよくする読み誤りを指摘することができても、単に「読みは正確に覚えるように」という指導をするだけでは読み誤りは直っていかないのが実状である。具体的にどういう場合にはどう読むのかをルール化することによって、正確な読みの記憶を助けることができると思われる。

4．今後の課題

中級レベルの漢字指導においては、効率的な漢字熟語のボキャブラリー・ビルディングを行うことと同時に、読みを正確に習得させていくことが特に漢字圏学習者にとっての大きな課題である。本稿では、漢字の読みの指導に関して、学習者の字音語の読み誤りをなくし、正確な読みの習慣をつけていくための方法として、二つの音読みを持つ漢字に注目させ、5つの読み分けの類を考えることによって指導する方法を提案した。(1)の類は、漢字圏学習者にとって、母語における読み分けに一致する例も多く、わかりやすいものであり、自分でも気づいていることが多い。実は、漢字圏学習者の場合、読み分けというと(1)の類を想像し、(2)や(3)のような類が存在することに気づ

かないことも多いので、特に指導する必要があると思われる。中でも(2)の類は、意味が分からなくても、語中の位置で読み分けられるところから、非漢字圏学習者にも大きな助けとなる。(4)(5)の類については、まだ検討が足りないが、今後さらに多くの漢字について読み分けのルール化を試みることによって、効果的な漢字指導に役立てていきたい。

注

1）参考文献3．のp．48を参照。

2）参考文献10．の中で玉村は、「現代日本漢字音の分布、特徴を教えること」と「形声文字については特に入念な指導をすべきこと」を指摘している。

3）参考文献9．のp．6-12に261字のリストがある。漢和辞典で片方の読みが特殊音とされているのは112字あり、【資料】1に載せてある。

4）音読みが二つある漢字のうち、片方の読みに特定の用法しかないと考えられるものは31字あり、【資料】2に載せた。

参考文献

1．相原茂（1985）「「力」ーリキとリョク」『日本語と中国語の対照研究 ―漢字の読み分けについて―（別冊）』日本語と中国語対照研究会: 22-25

2．荒川清秀（1985）「「下」の二つの音〈カ〉〈ゲ〉の読み分けについて」『日本語と中国語の対照研究 ―漢字の読み分けについて―（別冊）』日本語と中国語対照研究会: 26-43

3．加納千恵子（1994a）「漢字教育のためのシラバス案」『筑波大学留学生センター　日本語教育論集』第9号: 41-50

4．加納千恵子（1994b）「漢字圏学習者への中級漢字指導の問題 ―「大（タイ・ダイ・おお）」『日本語教育方法研究会誌』の読み分けを例に―」Vol.1 No.2 16-17

5．加納千恵子（1994c）「漢字圏学習者への中級漢字指導の問題(2) ―2種類の音読みをもつ漢字の読み分け―」『日本語教育方法研究会誌』Vol.2 No.1: 16-17

6．加納千恵子（1994d）「2種類の音読みを持つ漢字の読み分け指導」『平成6年日本語教育学会秋季大会予稿集』: 55-58

7．佐山佳予子（1986）「おお-　だい-　たい-(大)」『日本語学』明治書院　Vol.5-3: 36-42

8．杉村博文（1985）「「地(チ)」と「地(ジ)」の読み分け」『日本語と中国語の対照研究 ―漢字の読み分けについて―（別冊）』日本語と中国語対照研究会: 13-21

9．田窪行則（1985）「2つ以上の字音がある漢字の読み分けについて」『日本語と中国語の対照研究 ―漢字の読み分けについて―（別冊）』日本語と中国語対照研究会: 1-12

10．玉村文郎（1993）「日本語における漢字 ―その特質と教育―」『日本語教育』80号: 1-14

本研究の一部は、文部省の科学研究費補助金による一般研究（B）「パーソナルコンピュータを利用した外国人学習者の漢字力テスト（CAT）の開発」（研究代表者：加納千恵子、課題番号：04455003）からの助成を受けている。

【資　料】1．常用漢字で二つの音読みを持つ漢字のうち、片方の読みが特殊音のもの112字

1．依　イ/(エ)　エは帰依
2．遺　イ/(ユイ)　ユイは遺言
3．益　エキ/(ヤク)　ヤクは御利益
4．疫　エキ/(ヤク)　ヤクは疫病神
5．遠　エン/(オン)　オンは久遠
6．仮　カ/(ケ)　ケは仮病
7．夏　カ/(ゲ)　ゲは夏至
8．華　カ/(ケ)　ケは香華
9．回　カイ/(エ)　エは回向
10．街　ガイ/(カイ)　カイは街道
11．格　カク/(コウ)　コウは格子
12．眼　ガン/(ゲン)　ゲンは開眼
13．期　キ/(ゴ)　ゴは最期
14．脚　キャク/(キャ)　キャは脚立
15．久　キュウ/(ク)　クは久遠
16．虚　キョ/(コ)　コは虚無僧
17．供　キョウ/(ク)　クは供養、供物
18．境　キョウ/(ケイ)　ケイは境内
19．仰　ギョウ/(コウ)　コウは信仰
20．勤　キン/(ゴン)　ゴンは勤行
21．兄　ケイ/(キョウ)　キョウは兄弟
22．建　ケン/(コン)　コンは建立
23．権　ケン/(ゴン)　ゴンは権化
24．懸　エン/(ケ)　ケは懸念
25．厳　ゲン/(ゴン)　ゴンは荘厳
26．庫　コ/(ク)　クは庫裏
27．功　コウ/(ク)　クは功徳
28．紅　コウ/(ク)　クは真紅
29．香　コウ/(キョウ)　キョウは香車
30．貢　コウ/(ク)　クは年貢
31．再　サイ/(サ)　サは再来週
32．歳　サイ/(セイ)　セイはお歳暮
33．財　ザイ/(サイ)　サイは財布
34．殺　サツ/(サイ/セツ)相殺/殺生
35．仕　シ/(ジ)　ジは給仕
36．児　ジ/(ニ)　ニは小児科
37．事　ジ/(ズ)　ズは好事家
38．若　ジャク/(ニャク)　老若
39．寂　ジャク/(セキ)　セキは寂寥
40．主　シュ/(ス)　スは坊主
41．守　シュ/(ス)　スは留守
42．修　シュウ/(シュ)　シュは修行
43．就　シュウ/(ジュ)　ジュは成就
44．衆　シュウ/(シュ)　シュは衆生
45．従　ジュウ/(ショウ/ジュ)従容
46．祝　シュク/(シュウ)　シュウは祝儀
47．出　シュツ/(スイ)　スイは出納
48．緒　ショ/(チョ)　チョは情緒
49．除　ジョ/(ジ)　ジは掃除
50．上　ジョウ/(ショウ)　ショウは上人
51．情　ジョウ/(セイ)　セイは風情
52．食　ショク/(ジキ)　ジキは乞食、断食
53．仁　ジン/(ニ)　ニは仁王
54．数　スウ/(ス)　スは数寄屋
55．井　セイ/(ショウ)　ショウは天井
56．成　セイ/(ジョウ)　ジョウは成就
57．声　セイ/(ショウ)　ショウは大音声
58．青　セイ/(ショウ)　ショウは緑青
59．政　セイ/(ショウ)　ショウは摂政
60．星　セイ/(ショウ)　ショウは明星
61．清　セイ/(ショウ)　ショウは六根清浄
62．盛　セイ/(ジョウ)　ジョウは繁盛
63．精　セイ/(ショウ)　ジョウは精進、不精
64．静　セイ/(ジョウ)　ジョウは静脈
65．請　セイ/(シン)　シンは普請
66．石　セキ/(シャク/コク)磁石/石高

67. 赤　セキ/(シャク)　シャクは赤銅
68. 昔　セキ/(シャク)　シャクは今昔
69. 切　セツ/(サイ)　サイは一切
70. 説　セツ/(ゼイ)　ゼイは遊説
71. 節　セツ/(セチ)　セチはお節料理
72. 早　ソウ/(サッ)　サッは早速
73. 想　ソウ/(ソ)　ソは愛想
74. 贈　ゾウ/(ソウ)　ソウは寄贈
75. 団　ダン/(トン)　トンは布団
76. 壇　ダン/(タン)　タンは土壇場
77. 着　チャク/(ジャク)　ジャクは執着
78. 通　ツウ/(ツ)　ツは通夜
79. 弟　テイ/(ダイ／デ)　兄弟／弟子
80. 度　ド/(ト／タク)　法度／支度
81. 豆　トウ/(ズ)　ズは大豆
82. 道　ドウ/(トウ)　トウは神道
83. 内　ナイ/(ダイ)　ダイは内裏
84. 南　ナン/(ナ)　ナは南無阿弥陀仏
85. 納　ノウ/(ナッ/ナ/ナン/トウ)納得、納豆/納屋/納戸/出納
86. 拍　ハク/(ヒョウ)　ヒョウは拍子
87. 博　ハク/(バク)　バクは賭博、博徒
88. 鉢　ハチ/(ハツ)　ハツは托鉢
89. 反　ハン/(ホン/タン)謀反／反物
90. 煩　ハン/(ボン)　ボンは煩悩
91. 病　ビョウ/(ヘイ)　ヘイは疾病
92. 夫　フ/(フウ)　フウは夫婦
93. 富　フ/(フウ)　フウは富貴
94. 風　フウ/(フ)　フは風情
95. 奉　ホウ/(ブ)　ブは奉行
96. 法　ホウ/(はっ/ほっ)法度／法王
96. 亡　ボウ/(モウ)　モウは亡者
97. 坊　ボウ/(ボッ)　ボッは坊ちゃん
98. 暴　ボウ/(バク)　バクは暴露
99. 謀　ボウ/(ム)　ムは謀反
100. 凡　ボン/(ハン)　ハンは凡例
101. 耗　モウ/(コウ)　コウは心神耗弱
102. 目　モク/(ボク)　ボクは面目
103. 唯　ユイ/(イ)　イは唯々諾々
104. 遊　ウウ/(ユ)　ユは遊山
105. 立　リツ/(リュウ)　リュウは建立
106. 律　リツ/(リチ)　リチは律儀
107. 流　リュウ/(ル)　ルは流布
108. 留　リュウ/(ル)　ルは留守
109. 糧　リョウ/(ロウ)　ロウは兵糧
110. 緑　リョク/(ロク)　ロクは緑青
111. 露　ロ/(ロウ)　ロウは披露
112. 和　ワ/(オ)　オは和尚

【資　料】2．二つの音読みを持つ漢字で、片方の読みが特定の用法に限られるもの31字

1．右	ウ／ユウ	ユウは左右、座右
2．絵	エ／カイ	カイは絵画
3．去	キョ／コ	コは過去
4．拠	キョ／コ	コは証拠
5．嫌	ケン／ゲン	ゲンは機嫌
6．献	ケン／コン	コンは献立、一献
7．験	ケン／ゲン	ゲンは霊験
8．己	コ／キ	キは知己
9．甲	コウ／カン	カンは甲板
10．今	コン／キン	キンは古今
11．砂	サ／シャ	シャは土砂
12．冊	サツ／サク	サクは短冊
13．次	ジ／シ	シは次第
14．自	ジ／シ	シは自然
15．拾	シュウ／ジュウ	十の意味の拾
16．象	ショウ／ゾウ	動物の象
17．臣	シン／ジン	ジンは大臣
18．然	ゼン／ネン	ネンは天然
19．殿	デン／テン	テンは御殿
20．土	ド／ト	トは土地
21．登	トウ／ト	トは登山
22．読	ドク／トク／トウ	読本／読点
23．罰	バツ／バチ	バチは罰が当たる
24．泌	ヒツ／ヒ	ヒは分泌
25．貧	ヒン／ビン	ビンは貧乏
26．武	ブ／ム	ムは武者
27．封	フウ／ホウ	ホウは封建
28．平	ヘイ／ビョウ	ビョウは平等
29．末	マツ／バツ	バツは末弟
30．模	モ／ボ	ボは規模
31．妄	モウ／ボウ	ボウは妄言